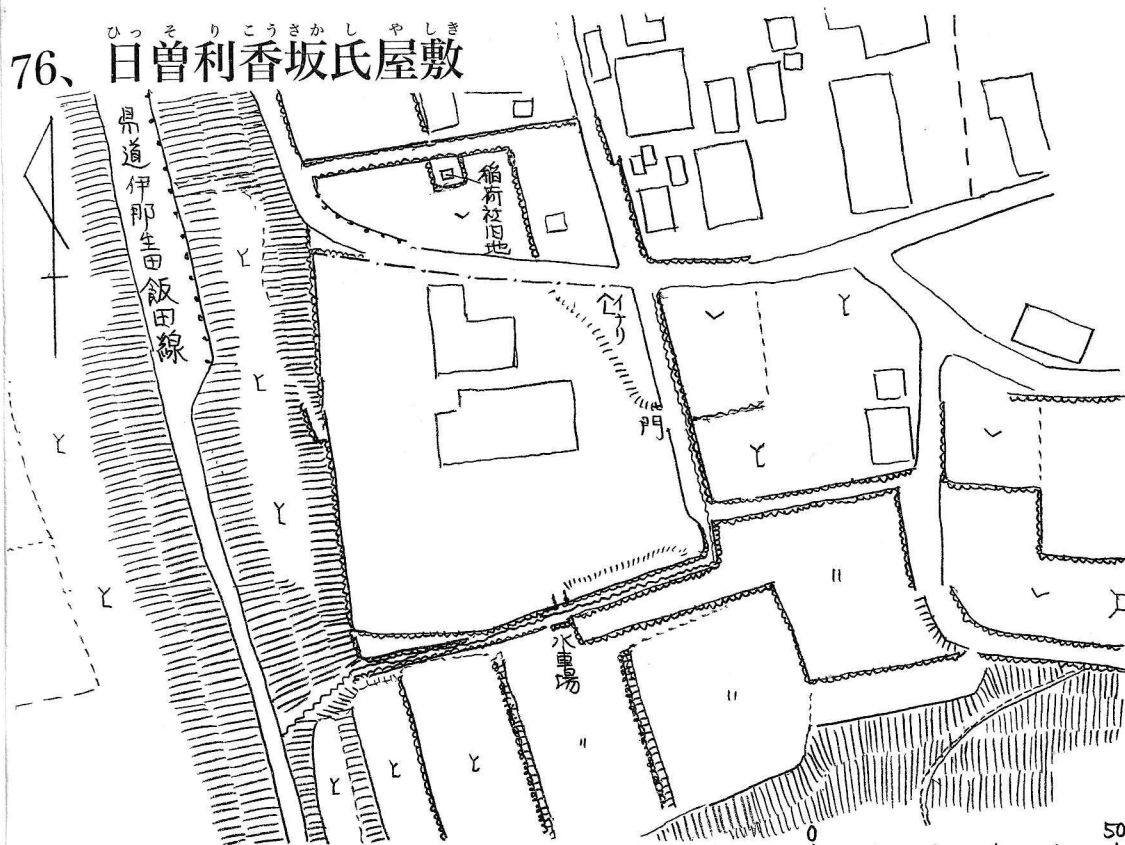


76、日曾利香坂氏屋敷



。立地 天竜川の左岸、陣馬形山の麓に孤立した集落日曾利がある。香坂氏の屋敷は県道上、集落の西端に位置する。ここは集落の南に流れ下る南沢に面して高台になり、西、南の二面が急崖に面している。日曾利集落下段の水田地帯や対岸の唐沢城、飯島の町方面は一望にできる。

飯島町日曾利 12頁
平成14年4月15日調・同日作図
標高580m. 比高20m.

日曾利から裏山を越えると中沢郷の水見山へ通じることかできる。

。香坂氏 日曾利は元来大草郷に属し、中世には大鹿村に勢力を張っていた南朝方の香坂高宗の勢力下にあった地帯である。香坂氏は、東山入鹿嶋の庄と言われた大河原にあって、後醍醐天皇の第三皇子宗良親王を援け、南朝勢力の回復に努めたが、その鹿嶋への入口が大草郷で、沢川沿いの道になる。記録も伝承も残っていないようであるが、大草郷には香坂氏とその一派がかなり有力な勢力を持ってがんばっていたに違いないと『伊那の古城』の著者は言っている。残っている記録は、天正10年(1582)7月の大草スギ(香坂氏)の家康に忠誠を誓った起請文(長杯寺文書)である。

日曾利の香坂氏がいづの頃に日曾利に土着したかについては、残念ながらはっきりしたことは分らないが

盛期には、日曾利を一人持ちで、467石と言われ、屋敷の前を走る時には、馬から下りて通ったという話も残っていると云う。(『伊那の古城』)

。倉庫跡 南北(東辺)は75m、東西(南辺)57mの長方形で、正門は東向で、屋敷の中を道が通ったために道の北にも続く。南の水路には水車場があり、ここにはしっかりした石垣が残る。

南向に残るこうした「御館」(おやか)は、10位あるようであるが、ここは建物は新しくなったが、地割りは、ほぼ完形に近く残っている。

